

1学期締めくくいの週です!

夏休みまであと4日の登校日を残すのみとなりました。



最後まで気を引き締めて生活するとともに、「**当たり前前**のことを**当たり前前**に行う」ことも大切にして最後の週もがんばってほしいと思います。

夏休みの計画を立てました!

夏休みの計画を本日立てました。
絆ノートにある「夏休みの計画」を保護者の皆様もぜひご覧いただき、生活リズムや勉強法について何かアドバイスをいただけるとたすかります。

明日から3連休。この3連休は、「夏休みに向けての助走期間」!

さっそく計画表をもとにして、できる課題に取り組んだり、自分の部屋の片付けをしたりしてはいかがでしょうか?

気持ちよく夏休みに入れるように準備をしてみましょう!



〈夏休み〉に向けての意気込み

☆ 君

今年の夏休みは、駅伝と卓球の練習に励むとともに、英語弁論大会に出場するのでその練習もがんばりたいです。

☆ さん

まず学習にしっかり取り組みたいです。1学期の課題を克服できるように勉強に力を入れます。また、部活動にも積極的に参加し、技能を高めたいと思います。

「今、自分が一番戦わなければならないのは『ボケ』、つまり認知症だなど。で、『夢はデカければデカイほど実現する』って昔から僕は信じてるから、大学受験することにしたんです……。」
今年、駒澤大学仏教学部4年生となった萩本さんの勉強法・「自分専用のノートを作った」ことなどが知られています。



萩本欽一さん76歳の挑戦

【今週の予定】

生活目標：1学期の生活を反省を、効果的な夏休みの計画を立てよう。
努力目標：夏休みの計画を立てよう。

日	曜	授業&行事						完全下校	
16	月								
		祝 海の日							
17	火	社会	英語	保体	国語	生徒	生徒	18:10	
		○生徒会レク⑤⑥(地区生徒会も行う)							
18	水	理科	英語	数学	保体	道徳	総合	18:10	
		○人権教育⑤ ☆部活あり ○ジェシカ先生離任式(人権教育後)							
19	木	国語	社会	家庭	数学	学活	総合	18:10	
		○出前講座性教育⑤ ○学年教室ワックスがけ(6校時→学活→清掃)							
20	金	理科	愛校	終業	学活			13:30	
		○第1学期終業式 ○愛校活動 ○給食あり							
21	土	○夏季休業(～8/26(日))							いよいよ夏休みです。

生徒会レク大会! みんなで一致団結!

バス時刻・・・路線達沢(14:18, 18:00) 路線高森(16:48, 18:35)

〈第1学期末保護者会にご出席いただき、ありがとうございました! 話し合いの内容をお知らせします!〉

修学旅行について話し合いました。出席いただいた方7名に現時点の希望をお聞きしたところ、4名が関西方面、3名が関東方面でした。保護者の皆様からは「生徒の行きたいところでいいです。」「関西はなかなか行けないので修学旅行で行くことができればいいと思うし、関東は将来就職して働くかもしれない場所なのでより深く学ぶことも大切になると思う。」「どちらも良いと思います。」というご意見を頂きました。

そのため、夏休み後にもう一度「生徒」「保護者の方」とともにアンケートを行い、その結果をもとに学校でも話し合い、9月上旬には決定することにしました。夏休み中よくお考えいただき、ご希望をお聞かせください。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



欽ちゃん“76歳で新番組が絶好調”の奇跡！「オレは諦めてないよ」

(熱くがんばる人には、何か秘訣がある！是非お読みください。)

夕暮れの世田谷の大学キャンパス——。授業を終えた学生たちが正門へと向かう中にひとり、明らかに高齢の男が交じっていた。

「あ、欽ちゃんだ！」

「バイバイまた明日」

「ビラどうぞ」

周りの学生たちが、彼に声をかけ、ビラを渡したり、話しかけたりしている。年齢からしたら、名誉教授くらいか。いや、彼もまたこの大学の現役の学生なのだ。彼の名は、萩本欽一。そう、あの欽ちゃんなのである。



◇ ◇ ◇

今、76歳の萩本がさまざまな場所で「奇跡」を起こしているのをご存じだろうか。

そのひとつが、2016年からNHKのBSプレミアムで不定期に放送されている番組『欽ちゃんのアドリブで笑(ショー)』である。

この番組は、テレビでおなじみの芸人や俳優たちに、萩本が修業時代に浅草で培った「軽演劇」のノウハウとアドリブによる笑いの極意を伝授するという実験的な番組。

出演者は、劇団ひとり、澤部佑、河本準一、女優・若村麻由美、俳優・風間俊介、前野朋哉、さらに天才子役・鈴木梨央と、今をときめく人気者ばかり。

彼らが、萩本の容赦ない無茶ぶりにどう応えるかが見どころである。

「たまたまNHKが僕に『コント55号』やってくれませんか、と言ってきたの。でも二郎さんはいないからできないよ、と答えたら、若い人とやってほしいと言う。だったら僕が、コント55号の軽演劇を若い人に教えるところをそのまま番組にするなら引き受けたんです」

軽演劇とは、テーマや物語に重きが置かれずに、娯楽性を重視した芝居のこと。萩本が修業した浅草で生まれた、身体を使ったコントで客を笑わせる芝居だ。

「今、テレビは言葉ばかりになってしまったけれど、軽演劇は身体や動きで笑わす芸。これが実にいい笑いなの。それを再現したかった」

萩本は、NHKの依頼がある前から番組の企画は考えていたという。

「僕は面白いと思ったら、どんどん考えて作っていっちゃう。仕事 came しました、じゃあ何か考えましょう、ではうまくいかない」

台本はなし。衣装と設定だけが決められていて、芝居はいきなり始まり、あとは萩本が指示を出し、それに演技者たちが対応していく。舞台の前には観客がいて、まさに軽演劇の劇場のムード。視聴者は、舞台稽古(ゲネプロ)を見せられている感覚に陥る。

「出演者は、何を無茶ぶりされるかわからないからすごく緊張してる。普段テレビでは絶対見れない顔だよ。その緊張が客席にも伝わる。だからこそ、そこから奇跡が生まれてくるんですよ」

萩本以外は、とりあえず普通の稽古を重ねるのだが、本番で萩本がアドリブでひっくり返すのだ。

「例えば、衣装は学生服とランニングシャツで、妻が家出するのを止める芝居、というのをやらせるんです。卓球をするコントでも、『筋肉痛の人の卓球』とか、ひねった設定にね。すると、必死になって演じるでしょ。結果、物語というか台本が舞台から生まれていく。それが軽演劇なんですよ」

「出演者を緊張させると奇跡が生まれるの。見てる人がワクワクする番組を作りたい」現在取り組んでいるオールアドリブ番組『欽ちゃんのアドリブで笑』について熱っぽく語る

ときには実際、奇跡のようなことも起きるらしい。

「若村さんが、15歳のときに別れた相手と15年後に再会するという設定で、うまい芝居を演ったのよ。相手は結婚しちゃっているという設定なんだけど、悲しそうな顔で“そうね。15年もたっちゃったんだもんね”と言って去っていく。僕はツッコミを入れようと思ったけど、止められなかった。お客さんがポロポロ泣いているんだもの。僕もグツときちゃった。うめえもんだな、と思いましたよ」(後略)